

第25回 中国語スピーチコンテスト

外国語学部 中国語学科 実行委員会

ここに掲載した記事6本は、中国語学科「第25回スピーチコンテスト」(2026年1月14日)に参加した学生の原稿を、本人の許可を得て再掲したものです。

- 【日 時】 2026年1月14日(水)、13:30~17:00
- 【場 所】 みなとみらいキャンパス 米田吉盛記念ホール(1階)
- 【プログラム】
- | | | |
|--------------------|--------------------|-------------|
| 1. 開会のあいさつ | 2. 審査員紹介 | 3. 審査方法説明 |
| 4. 暗唱部門 発表 | 5. 初習クラス スピーチ部門 発表 | |
| 6. 既習クラス スピーチ部門 発表 | 7. 合唱部門 | |
| 8. 講評 | 9. 審査結果発表・表彰 | 10. 閉会のあいさつ |

スピーチコンテストには、暗唱部門6名、初習クラス・スピーチ部門3名、既習クラス・スピーチ部門4名が参加しました。スピーチ部門の発表テーマは、中国および中国語圏に関連する内容であれば自由としました。

初習クラス スピーチ部門

抖音中毒

四年级 平松 千佳

在中国出现的抖音这个APP，受到大家的欢迎。我去中国的时候，无论小孩子还是老年人都喜欢看抖音。甚至有些人在爬长城的时候也坐着看抖音。确实，抖音有很多好处。当我们生活压力大的时候，搞笑短视频能带来放松。而且，抖音会让曾经流行的文化，再次被大家看见。虽然看抖音有优点，但我们同时也要注意这个APP的三个问题。

第一，经常看很长时间抖音，会使我们很难集中注意力。近年来，孩子们的注意力下降已经成为社会问题。我想问大家，最近各位能不能认真的看书呢？我上大学以后，也不能了。对我来说，这个问题也是最大的困扰。不只是抖音里的短视频，所有的短视频都会让我们感觉到很快乐，这就导致了我們越来越不能集中注意力看书。

第二，抖音上的某些消息并不准确，在网上，大家都想要更多的关注。但是有些人为了让自己的视频获得很多的点赞，会发布虚假的内容，或者表现的很夸张。所以说如果一看视频就相信它的全部内容，就容易做出错误的判断。

第三，我觉得这是抖音最大的问题，就是会浪费大量时间。有没有这样的一种情况，在床上刷视频觉得只过了一小会儿，但是不知不觉却过去了三个小时，但是就算看了这么久，能够记住看到的内容吗？我想各位都不能记住，对吧，所以说，我们什么都没有学到。我们在生活中要珍惜自己的时间，不能过分花费时间在抖音上。

虽然我今天谈论的是抖音，但同时我们也要注意所有的短视频，比如微信视频号，腾讯视频，小红书等等。我们要好好珍惜大学的时光。

抖音中毒

中国で生まれたアプリ「抖音（ドウイン）」が、多くの人に愛されています。（海外版は「TikTok」として知られています。）私が中国へ行った時は、子どもからお年寄りまで、誰もが抖音を見ていました。中には、万里の長城を登っている途中でさえ、座り込んで抖音を見ている人もいます。

たしかに、抖音には良いところもあります。生活の中でプレッシャーを感じる時、面白いショート動画は楽しさと安心感を与えてくれます。さらに、抖音のおかげで、以前流行した文化が再び注目を集めることもあります。しかし、このようなメリットがある一方で、同時に私たちは抖音に関して三つの問題にも気を付けなければなりません。

第一に、普段から長時間抖音を見続けることは、集中力が落ちてしまう原因になります。近年、子どもたちの注意力低下は社会問題になっています。少しお尋ねしますが、皆さんは最近、本を集中して読めていますか？私は、大学に入ってからできなくなってしまいました。私にとって、この問題は最大の悩みでもあります。抖音だけでなく、すべてのショート動画は私たちに楽しさを与えてくれますが、その結果、気づかないうちに集中力を奪われ、本が読めなくなってしまうのです。

第二に、抖音で見られる情報の中には、不確かなものもあります。多くの人が注目を集めたいと思う中で、再生数や「いいね」を得るために誇張した表現や、嘘を含む動画を投稿する人もいます。ですから、画面に映るものをそのまま信じると、誤った判断につながりかねません。

第三に、最も深刻な問題は、時間を無駄にしてしまうことです。ベッドで「少しだけ見よう」と思ったら、気づけば三時間経っていた、という経験はありませんか？

そして、その間に見た内容を覚えていますか？

おそらく、ほとんど覚えていないでしょう。つまり、何も得られていないまま、大切な時間が消えてしまうのです。

今日お話ししたのは抖音ですが、同じことはすべてのショート動画アプリにも当てはまります。例えば、WeChatチャンネル、騰訊動画、小紅書などです。私たちは大学生生活を大切に、時間を賢く使っていきましょう。

我推荐的中文学习APP

三年级 澤野 洋人

大家好！你们知道Super Chinese吗？这是一款学习中文的APP。今天我想向大家介绍一下我实际使用这个APP后感受到的它的魅力。

首先，它从1到7级的课程。你可以通过一次测试来了解自己目前的水平，然后从适合你水平的课程开始学习。我第一次测试的结果是5级，可是我想要巩固一下我的中文基础，所以我就从3级开始学习了。

你可以从课程中选择想要学习的主题，按照词汇、语法、课文和测验的顺序进行学习。因为可以循序渐进地学习一个主题，我发现这样更容易记忆。此外，付费后即可使用人工智能学习功能。这项功能非常实用，所以我想向大家介绍一下。这项功能有很多用途，其中有两个我特别推荐。

第一个功能就是，可以选择学习场景，比如工作地或者学校，然后根据场景跟人工智能谈话。因为是和人工智能谈话，而不是与真人对话，所以我不会感到紧张。

第二个功能是，当你用这个APP拍照时，人工智能不仅会告诉你照片里的东西的中文名称，还会提供例句。我被这个想法深深吸引：只是拍几张照片，就能做自己的原创学习材料。

还有一个功能，就是可以让你和其他正在使用这个APP的人在线上聊天，我认为这很有吸引力，因为它让你能轻松地输出你所学到的东西。

今天我为大家介绍了Super Chinese。我特别推荐像我一样在大学开始学习中文的初学者们试用一下。谢谢大家。

私がおススメする中国語学習アプリ

みなさんこんにちは。みなさんは、「スーパーチャイニーズ」を知っていますか？これは中国語学習アプリです。今日は、私がいかにこのアプリを使って感じた魅力を皆さんに紹介したいと思います。

まず、このアプリではレベル1から7までのコースがあります。最初のテストで自分のレベルを知り、自分のレベルに合わせたコースから学習できます。私は、最初のテストでレベル5だったのですが、中国語の基礎を固めたかったので、レベル3から学習しました。

コースの中から自分が学習したいトピックを選び、それぞれ語彙、文法、本文、小テストの順番で学習できます。一つのトピックについてしっかり段階を踏んで学習できるため、記憶に残りやすく感じました。

さらに、課金するとAIを用いた学習機能を使うことができます。この機能がとても有益なので、ぜひ皆さんに紹介したいと思います。この機能でできることの中で、特におすすめしたい二つの機能があります。

一つ目は、自分が学習したいシーン、たとえば職場や学校を選び、それに合わせてAIと会話できる機能です。これは、実際に人と話すのではなく、AIと会話するので私は緊張せず学習できました。

二つ目は、このアプリで写真を撮ると写真に映っている物をAIが中国語で何と呼ぶのか教えてくれるだけでなく、例文も教えてくれる機能があります。私は、ちょっと写真を撮るだけで自分だけのオリジナル教材ができるところに魅力を感じました。

そして、実際にこのアプリを使用している人同士でオンライン上で会話できる機能もあり、アプリで学んだことを気軽にアウトプットできるのも魅力的だと思いました。

このように、今日はスーパーチャイニーズというアプリを紹介しました。特に私のように大学から中国語を学び始めた初級コースの方にはぜひ一度使って欲しいです。

これで発表を終わります。ご清聴ありがとうございます。

天下一家

二年级 高梨 爱华

大家好！

我叫高梨爱华，是法律系二年级的学生。我今天演讲的主题是“天下一家”。

我觉得，所有的人就像一个大家庭一样。不管是日本人还是中国人，都可以彼此理解，和睦相处。因为我的爸爸是日本人，妈妈是中国人，他们结婚后一直相互尊重，彼此包容，如今依然过着幸福的生活。

在家里，妈妈会做中国的家常菜，比如水饺和各种炒菜；爸爸则擅长做日本料理，比如寿司和天妇罗。春节的时候，我们一家人会一起包饺子，享用妈妈做的中国美食；而在日本新年时，我们又会围坐在一起享用爸爸做的日式御节料理。当餐桌上摆满美味的菜肴和好吃的水饺和煎饺的那一刻，我常常觉得国界仿佛消失了，大家围坐在一起，笑容满面，吃得特别开心。能出生在这样温暖的家庭里，我感到非常幸福，也希望大家都能带着笑容享受美味的食物。

我的爸爸和妈妈是通过相亲认识的。有一次，我在整理家里的书架时，发现了一本旧旧的中文教材，书里密密麻麻地写满了笔记，还画着许多荧光笔的标记。那是爸爸为了能和妈妈多交流而努力学习中文留下的痕迹。经过几次交流后，他们开始约会。

在中国，过马路时需要穿过车流。记得有一次，妈妈准备直接穿过马路，爸爸一边大喊“危险！”，一边拉住了她。因为在中国，穿越马路是一件很普通的事，妈妈当时并没有意识到危险。正是这一刻，妈妈心里想：“这个人会珍惜我。”于是，她决定和爸爸结婚。

结婚后，妈妈也为了能和爸爸更好地交流，开始努力学习日语。她的付出最终得到了回报，在日本的演讲比赛中还获得了奖项。成长在不同的环境中，看世界的角度也会不同，而正是这种差异，让人有更多新的发现。

正因为在这样的家庭中成长，我深刻地体会到：虽然世界上的人们有着不同的背景和文化，但彼此包容，相互理解与和睦相处是非常重要的。

感谢大家的倾听！

天下一家

みなさんこんにちは。

私は法学部2年生の高梨愛華です。

今日私が話すテーマは「天下一家」です。

私は、すべての人は一つの大きな家族のような存在だと思っています。日本人であっても中国人であっても、互いに理解し合い、仲良く暮らすことはできると思います。なぜなら、私の父は日本人、母は中国人ですが、二人は結婚してからずっとお互いを尊重し、思いやりをもって支え合い、幸せな生活を送っているからです。

家では、母が水餃子やさまざまな炒め物など、中国の家庭料理を作ってくれます。一方、父は寿司や天ぷらなどの日本料理が得意です。春節には家族みんなで餃子を包み、母の作る中国料理を楽しみ、日本のお正月には、父が作るおせち料理を囲んで食事をします。食卓おいしい料理や水餃子、焼き餃子が並ぶその瞬間、国境というものが消えてしまったかのように感じることがあります。家族みんなが笑顔で、心から食事を楽しんでいるのです。このような温かい家庭に生まれたことを、とても幸せに思っています。そして、皆さんにも笑顔でおいしい食事を楽しんでほしいと思います。

私の父と母は、お見合いで出会いました。あるとき、私が家の本棚を整理していると、古い中国語の教科書を見つけました。その本には、びっしりとメモが書き込まれ、蛍光ペンでたくさんの印が付けられていました。それは、母ともっと会話ができるようにと、父が一生懸命中国語を勉強した跡でした。何度かやり取りを重ねるうちに、二人は交際を始めました。

中国では、道路を渡るときに車の流れを横切ることがあります。ある日、母がそのまま道路を渡ろうとしたとき、父は「危ない！」と叫び、母を引き止めました。中国では道路を横断することが日常的だったため、母はその時、危険だとは思っていなかったのです。しかしその瞬間、母は「この人は私を大切にしてくれる人だ」と感じ、父と結婚することを決意しました。

結婚後、母も父より良くコミュニケーションを取るため、日本語の勉強を始めました。その努力は実を結び、日本でのスピーチコンテストで賞を受賞するまでになりました。育った環境が違えば、物事の見方も異なりますが、そうした違いこそが、新しい発見をもたらしてくれるのだと思います。

世界にはさまざまな背景や文化を持つ人がいます。私はこのような家庭で育ったからこそ、互いを受け入れ、理解し合い、共に平和に生きることが何よりも大切だということ強く感じています。

ご清聴ありがとうございました。

既習クラス スピーチ部門

私の目に映る中国

私は小さい頃からずっと日本で暮らしてきました。でも、日本にいるからと言って、中国とのつながりが途切れていたわけではありません。小学生だった頃、放課後は家で中国のドラマやアニメを見たり、たまにパソコンで、中国のゲームサイト「4399」を使ってゲームをしたりしていました。そうした時間は、細い糸のように、静かに私と中国を繋いでいたのだと思います。

私が4、5歳の頃、一度中国に帰ったことがあります。あの頃の街は、今のように発達してはいませんでした。出前はまだまだあまり普及していなくて、スマートフォンも人々の生活には溶け込んでいませんでした。街並みは素朴で、少し静かな印象でした。あの頃の記憶はあたたかいけれど、どこかぼんやりしています。建物や道並み、一家団欒の笑顔は覚えています。記憶のすべてが断片的で、ピントの合っていない写真のように感じ、中国の全貌を捉えきれていない様に思いました。

その後、何度か中国へ行く機会があり、行くたびに、街は少しずつ変化していることを実感しました。道路は広くなり、建物も増え、交通も便利になっていました。「中国は進化している」と、頭ではわかっていました。しかし、その頃の私にとって中国は、まだどこか曖昧な存在でした。懐かしいのに、同時に少し遠く感じる、そんな国でした。

そして、大学入学前の春休みに、私はもう一度中国へ行きました。あの旅こそが、私にとって「本当に中国を見た」最初の経験でした。そこには、私の記憶にある中国とはまったく違う光景が広がっていました。スマホで支払いができ、シェアサイクルが街中にあり、地下鉄の改札もスマホ一つで通れる。出前や宅配は驚くほど速く、街全体がリズムよく動いている様に感じました。

同時に、私は自分が時代に取り残されたような感覚を覚えました。タクシー配車アプリの使い方が分からず、電子決済にも手こずりました。さらには、友だちと出かける前に、一人でこっそりアプリを開き、タクシーを呼ぶ練習をすることさえありました。情けなくて、少し笑ってしまうような、でも本当に必死な時間でした。しかし、その戸惑いこそが、私に新しい発見を与えてくれました。

中国は、私の幼い頃の記憶の中にある素朴な国ではない。スピードと活力に満ちた、まさに「今を生きる国」だったので。その瞬間、驚きと同時に、強い誇りのような感情が心の中に生まれました。

私の目に映る中国とは、ただ発展している国ではありません。それは、「ぼんやりした記憶」から「はっきりした実感」へ。時間とともに変化し続ける、ダイナミックな存

在です。

そして、私自身の中国に対する理解も、今もお変化し続けています。けれど、この「模倣から明確へ」と進んでいく過程こそ、私と中国との関係を、より大切に特別なものにしていただいていると感じます。これが、私の目に映る中国です。

ご清聴ありがとうございました。

我眼中的中国

一年级 石井 瞳

大家好。我是外国语学部中国语学科的一年级，石井瞳。今天我要分享的是，「我眼中的中国」。

我从小在日本读书和生活。虽然身在日本，但我和中国之间的联系一直没有断开。我在小学的时候，放了学就常常在家里看中国的电视剧，动画片，有时还会上网玩“4399”。这些经历就像一条细细的线，把我和中国悄悄地连接在一起。

小时候，大概4、5岁时，我第一次回到中国的家乡。那时的城市还没有如今这样发达，在我的记忆里，外卖并不普及，智能手机也还没有完全进入日常生活，街道显得安静而朴素。那段时期的记忆，对我来说是温暖的，却也是模糊的。我记得房屋的样子，记得街道的气氛，也记得与家人团聚时的笑声，但这些画面始终是零零散散的，像一张没有完全对焦的照片，很难组成一幅完整而清晰的中国。

后来，我陆续又回国过1、2次。每一次回去，我都能感觉到城市在慢慢发生变化。道路变得更宽阔，高楼越来越多，公共交通也越来越便利。我知道，中国正在一步一步地发展。然而，在那段时间里，我对中国的印象仍然是朦胧的。熟悉，却又陌生。

直到上大学前的春假，我再次回到中国。那一次，是我人生中第一次真正“看清”中国。城市里到处可以扫码支付，共享单车随处可见，地铁可以直接手机进站，外卖和物流系统高效而有节奏。与我记忆中的城市相比，它像是忽然升级到了一个全新的阶段。也正是在那段时间，我强烈地意识到自己好像“落后于时代”。很多事情我都不会。打车软件不熟练，移动支付也经常摸不着头绪。甚至在和朋友出去见面之前，我还悄悄一个人练习如何打车，生怕到时候手忙脚乱。那种又紧张又好笑的感觉，让我深刻体会到中国发展的速度，也让我真切地感到自己“什么都不知道”，仿佛一下子变成了一个跟不上节奏的新人。

但正是这种不适应，反而让我更加清醒地意识到中国已经不再是我童年记忆中那座朴素而安静的国家，而是一座充满活力、充满速度、不断向前发展的现代化社会。震撼与自豪，在那一刻同时出现在我的心中。

在我眼中，中国不仅是一座不断进步的国家，更是一种从模糊走向清晰、从过去迈向未来的力量。它让我看到时间带来的积累，也让我理解到，每一次变化背后，都有无数人的努力与付出。而我对中国的认识，也正是在这种变化之中，一点一点被重新建立。

即使现在，我对中国的理解仍在继续深化。但正是这种从陌生到熟悉、从模糊到清晰的过程，让我更加珍惜自己与中国之间这段独特而真实的联系。这，就是我眼中的中国。

谢谢大家。

花火の記憶——春節から日本の真夏へ

みなさん、こんにちは。神奈川大学外国語学部中国語学科1年の、井上るりです。本日、私がお話しするテーマは「花火の記憶——春節から日本の真夏へ」です。

花火と聞いて、ずっと中国東北地方で暮らしてきた私の頭に、まず浮かぶのは冬の春節の夜です。その頃の夜はとても寒く、道端には掃き集められた雪の山が積まれ、空気には肌を刺す冷気と、かすかな火薬の匂いが混じっていました。花火や爆竹の音が絶え間なく鳴り響き、白く染まった街を明るく照らします。そこには賑やかさがあり、家族の温もりがあり、そして言葉にしがたい、淡い切なさもありました。それが、かつての私にとっての花火のすべての記憶でした。

そんな私が日本に来たのは、2024年の初めです。来日してしばらくの間、私はとても不安な日々を過ごしていました。体調を崩していたこともあり、また日本語がうまく話せないのではないかという不安から、数か月間ほとんど外に出ることができませんでした。授業が始まってからも、教室では常に緊張していて、なかなか周りの人と話すことができませんでした。その孤独で迷いの多い時期、私は何度も「本当にここで生活していけるのだろうか」と自分に問いかけていました。

そんなある時、中国語学科の中国人の友人が、花火大会に誘ってくれました。それが、私にとって人生で初めての花火大会でした。彼女は、「最近、誰かと一緒に花火を見ることがなかった」と話してくれました。去年の夏は、夜空を一人で見上げるだけで、その瞬間の気持ちを分かち合う相手がいなかったそうです。だからこそ、今回の花火大会を、私と同じように心から楽しみにしていました。

私たちは一緒に砂浜に座りました。潮の香りを含んだ海風が頬をなで、空は次第に暗くなり、周囲の灯りが一つずつ消えていきます。暗闇の中でも、人々の話し声は賑やかで、まるで全員が同じ瞬間を待ち望んでいるかのようでした。

心の準備もできないまま、突然、夜空を白い光が切り裂きました。その音は胸の奥まで響くようで、一瞬にして空一面が明るくなりました。続いて花火が空中で大きく開き、夜空全体を照らし尽くします。二発目、三発目と次々に打ち上がり、私はただ空を見上げ、息をすることさえ忘れていました。

その、最もまぶしく、最も大きな音が響いた瞬間、私は強く感じました。

「——ああ、私は今、本当に日本にいるんだ。」

その実感は、言葉や風景よりもずっと直接的で、まるで一発の花火に打ち抜かれたような感覚でした。

隣に座っていた中国人の友人が、夜空に咲く花火を見つめながら、「久しぶりに、誰かと一緒に花火を見られた」と、静かに言いました。その時、私は気づきました。私たちはもう、その瞬間、孤独ではなかったのだと。

たった一つの誘い、そして一度の花火大会が、私を少しずつ不安の中から連れ出してくれました。春節の冬の夜に鳴り響く花火爆竹から、日本の真夏の花火へ。私の花火の記憶は、広がり、書き換えられていきました。その音は今も変わらず耳を震わせますが、そこには以前よりも確かな温もりがあり、新しい環境で生きていくための勇気を、そっと与えてくれています。

ご清聴、ありがとうございました。

烟花的记忆：从春节到日本盛夏

一年级 井上 るりり

大家好，我是神奈川大学外国语学部中文学科一年级的学生，井上璐莉莉。今天我要演讲的主题是“烟花的记忆：从春节到日本盛夏”。

说起烟花，作为一直生活在中国东北的我，脑海里首先浮现的，是冬天的春节。那时候的夜晚很冷，街边堆着被扫到一起的雪堆，空气里混着刺骨的寒气和一点火药味。烟花与爆竹此起彼伏地响着，照亮白茫茫的街道。那样的烟花里有热闹，也有家的味道，还有一种说不清的，淡淡的忧伤。那曾经就是我对烟花全部的记忆。

直到2024年年初，我来到日本。刚来的那段时间，我非常不安。因为生病，也因为担心自己的日语不好，我有好几个月几乎不怎么出门。刚开学的时候，我坐在教室里总是紧张得和同学说不上话。那段孤单又迷茫的日子，我常常怀疑自己是不是没办法真正适应这里的生活。

就在那时，一位中文学科的中国同学主动邀请我去看烟花大会。那是我第一次看烟花大会。她告诉我，她也很久没有和别人一起看烟花了。去年的夏天，她都是一个人看着夜空，没有人能分享她当下的感受。所以这一次，她和我一样兴奋。

我们一起坐在沙滩上。海风带着潮水的味道掠过，天色慢慢沉下去，周围的灯光逐渐被关掉。黑暗中人们聊得热火朝天，仿佛每个人都在期待着同一个瞬间。

就在我还没准备好的时候，夜空突然被一道白亮划开。那一刻的声音像从胸口深处震出来，整片天空都被点亮。紧接着烟花在空中炸裂，几乎是把整片夜空照得通亮。第二朵、第三朵接连升起。我抬着头，几乎忘了呼吸。

就在最刺眼、最响亮的那一瞬间，我突然产生了一种强烈的感觉：

“原来……我现在真的在日本。”

那种实感，比语言、比风景更直接，像是被那一声烟花打出来的。

当那个中国朋友坐在我旁边，看着夜空中不断绽放的烟花，她轻声说“好久没有和别人一起看烟花

了”，那时我意识到我们此刻都不再孤单了。

一个简单的邀请，一场普通的烟花大会，让我从不安中慢慢走出来。从春节冬夜里的烟花爆竹，到日本盛夏的烟花，我的记忆被延伸，被重写。烟花的声音依然震耳，却比以前多了一份温暖，也给了我在新的环境中慢慢安定下来的勇气。

我的演讲到此结束，谢谢大家。

我与南京

四年级 林智蓉

我第一次踏上“南京”这片土地是八年前。那时候，我参观了中山陵、夫子庙等旅游景点。但因为只在南京停留了一天，没能好好欣赏这个城市的美丽景色，所以在我心里一直有想再去南京的想法。

直到两年前的那个夏天，我开始思考未来，萌生去中国留学的念头的时候，我果断的选择了南京。因为在我眼中，南京是一座在历史上与日本有着深厚关联的城市。在这样的环境中学习，既能促进中日两国的友谊与交流，甚至能提升我的中文水平，了解南京人对日本的想法，从而改善与理解。

2024年9月，我梦寐以求的留学生活开始了。起初，我很担心在南京的生活，但是课程开始后，认识了许多来自世界各地的同学，也交到了亲近的朋友。留学期间，我主要上留学生的汉语课程来提升中文水平，通过本科生的专业课程深化专业知识。留学生的汉语课程对我来说是积累词汇的好机会，因为我从小在日本长大，在日本学习中文，所以难免会通过语感去猜测一个词的意思。所以汉语课程让我学到了更多语法以及高难度的词汇，也提高了写作能力和会话能力。相反，翻译课、城市社会学、历史课等本科生的课程提升了我的中日翻译能力以及对中国的深度认知。这些课程对我来说也是个挑战，专业术语和教学进度都让我感到困难，但是我咬牙坚持、认真复习、努力跟上教学进度。

除了学习，我还游览了南京的名胜古迹，比如在玄武湖欣赏秀丽风光，在红山动物园看大熊猫，在博物馆学习南京历史、在明城墙上仰望城市全景。课余时间，我也经常和日本朋友一起去新街口吃日料。有一次，去吃寿司时，我忽然好奇：“这些寿司是怎样来到餐桌上的？”，正是这个疑问，我开始对贸易产生了兴趣。后来，我在找工作时应聘了水产贸易公司，并在毕业论文中研究了中日水产贸易。

最后我想说，南京对我而言，不仅仅是留学之地，一个提高中文水平和了解南京历史的地方，它也是赋予我契机，为我打开了更多未来可能性的地方。

私と南京

初めて南京という土地に踏み入れたのは8年前である。その頃、私は中山陵や夫子廟などの観光名所を訪れた。しかし、南京には1日しか滞在していなかったため、ちゃんとこの都市の美しい景色を堪能することができなかった。だからずっと南京にはもう一度いきたいと思っていた。

そして、2年前の夏、私は将来のことを考え始めた、中国に留学したいという考えが芽生えた。その時私は真っ先に南京を選んだ。なぜなら、私の中では南京は歴史の中で日本と最も関わっている都市とっていて、このような環境で勉強することで日中関係の友好と交流を促進できるだけでなく、自身の中国語スキルを向上させ、南京人の日本への思いを知り、改善と理解することができると思ったからである。

2024年9月、夢に見た留学生活が始まった。初めは南京での生活に不安を感じていたが、授業が始まると世界各国からきた学生と知り合い、仲のいい友達もできた。留学期間、主に留学生のための中国語カリキュラムで中国語スキルを向上させて、本科生のための専門科目で専門知識を深めた。留学生のための中国語カリキュラムは私にとって語彙力を増やすいい機会であった。なぜなら、私は小さい頃から日本で育ち、日本で中国語を学んでいたの、言葉のニュアンスで一つの語の意味を推測することもあったからである。だから、中国語カリキュラムで多くの文法とハイレベルな語彙を学ぶことができ、ライティングスキルとスピーキングスキルを高めることができた。それに対して、翻訳授業、都市社会学、歴史の授業などの本科生の授業は私の日中翻訳スキルを向上させ、中国に対して深く知ることができた。これらのカリキュラムは私にとっても1つの挑戦であり、専門用語や授業のスピードに対して難しいと感じていたが、歯を食いしばって、まじめに復習をして頑張って授業のスピードに追いつこうとした。

学業のほかに、南京の観光名所も訪れた。例えば玄武湖で美しい景色を楽しみ、紅山動物園ではパンダを見て、博物館では南京の歴史を学び、城壁の上から都市全体を見渡した。休みの日はよく日本人の友達と新街口に行き日本料理を食べた。ある日寿司を食べに行った時「これらの寿司はどのようにして食卓にきたのか？」と疑問に思った。まさにこのような疑問によって貿易に興味を持ち始めた。その後、私は就活で水産貿易会社に応募し、卒業論文でも日中の水産物貿易について執筆した。

最後に私が言いたいのは、私にとって南京は留学の地であり、中国語スキルを向上させ、南京の歴史を知れた場所であるだけでなく、私にきっかけを与え、将来への可能性を大きく開いてくれた場所なのである。